

羅針盤



2017年7月14日(金) 第15号

＝ 7月のことば ＝

私は失敗したのではない。
これではうまくいかないとい
う方法を1万回発見した
だけだ。(トーマス・エジソン)

夏休み、こんなふうに過ごしましょう

1 生活リズムを変えないようにしましょう

夏休みになったからといって起床や就寝時刻を遅らせたりしないようにしましょう。いったん生活リズムを崩すと、元に戻すのは予想以上に大変なもの。夏休みが終わって2週間ほどで前期末考査もあります。授業や課外が無くなった部分を自主的な学習で組み立てるようにしましょう。



2 オープン・キャンパスに出かけよう

多くの大学等で、夏休みの期間中にオープン・キャンパスが企画されています。「オープン・キャンパスに参加することで学習意欲が高まった」「自分の目で見て大学に進学したいという意識が強まった」と多くの先輩が語っています。ぜひ開催日などを調べましょう。遠くに出かける場合、学割を利用する場合は、時間的に余裕をもって早めに手続きしてください。

3 本を読もう

夏休み中も部活動などで忙しいかもしれませんが、ぜひ本を読みましょう。夏休みの課題として指示されている部分もあるかもしれませんが、小説一冊と新書一冊ぐらいは最低でも読みたいものです。

4 毎日、新聞を読もう

毎週木曜日の朝学習として新聞の社説を読み、三行で自分の意見、その理由を三行でまとめてもらっています。夏休み中も、ぜひ新聞を読みましょう。毎日、気になった記事や社説などを切り抜いて(もしくはコピーして)ノートに貼り、自分の意見とその理由をまとめてみましょう。

5 家の手伝いをしよう。ボランティア活動などに参加しよう

学校のある日にはできないような家の手伝いやボランティア活動など、あるいは地域の活動などにも積極的に取り組みましょう。そういう活動にも、新しい発見や、自分の成長の芽があるものです。また、普段は部活動などが忙しくてできていないのであれば、家族の一員としての役割を果たすのも良いのでは？

☆夏休み中ではありますが、夏季課外は原則的に全員参加です。体調不良等で欠席する場合は、通常どおり学校までご連絡ください。

☆東北大学オープンキャンパスへ参加する25日(火)は授業日扱いです。

☆『16歳のハローワーク』20日位まで引き続き集めます。ぜひご協力ください。よろしくお願いします。

7月	曜日	行事等	朝学習
15日	土	夏季課外(国数英)1日目	自習
16日	日	夏季課外(国数英)2日目	数学
17日	月		
18日	火	夏季課外(国数英)3日目	英語
19日	水	夏季課外(国数英)4日目	国語
20日	木	夏季課外(国数英)5日目	総合
21日	金	夏季課外(国数英)6日目 学校説明会(中学生対象)	数学
22日	土	夏季課外(国数英)7日目	自習
23日	日		
24日	月	夏季課外(国数英)8日目	数学
25日	火	東北大学オープンキャンパス(授業日扱い)	
26日	水	夏季課外(国数英)9日目 コーラス部定期演奏会(市民文化センター)	国語
27日	木		

7月25日は授業料の口座振替日です。お手数ですが、振替日の前日までに口座の残高確認をお願いいたします。

『私の人生はダブルヘッダーである』～ 斎藤和也先生の講演を聞いて②～

2組 伊東 莉々香 さん

私は、斎藤和也先生が自分から目が不自由なんだと言うまで、斎藤先生が目が見えないことに気づきませんでした。その時「普段の生活でも、もしかしたら周りに何か体が不自由な方がいて、私はそれに気づかず生活しているのかな」と、ふと思いました。何気ない、いつもの生活の中で、色々な視点から生活を見直すと、気づかないことに気づけることができると考えさせられました。

3組 加藤 妃奈 さん

今回の講話を聴いて特に私の心に残ったことは2つあります。

まず1つ目は、私たちは東日本大震災を経験した者として、歴史の証人にならなくてはならないということです。あの時、何が起きたのか、あの時の教訓を私たちが生きている限り伝えていかなくてはならないんだなあ、と思いました。

次に、「障害者に優しい町は健常者にも優しい町である」という言葉です。和也先生が「これからの日本は障害者と健常者が共に生きる国であらなければならない」とおっしゃったように、私たちはこれからの日本を担う世代として意識を高めなければならない、と思いました。

3組 佐久間 貴子 さん

世間は体にどこか不自由なところがある人を「障害者」と呼んで「かわいそう」などと同情しがちです。私も講演を聞く前には実際そういうふうに考えていたと思います。でも、それは間違った考え方であり人としてひどいことをしていたのだと、斎藤先生の「不自由だと思ったことはあるが、不幸だと思ったことは一度もない」という言葉で気づくことができました。体に不自由なところがあること、それもその人の個性であって、一人一人が受け入れることで「共に生きる優しい町」をつくれるのではないかと思います。… 今まで「体に不自由なところがある人」についてなんとなくわかっている気でしたが、本当はただの同情だけで何も理解できていなかったのだと気づくことができました。私は将来、看護師になりたいと考えています。たくさんの方の事を学び、患者さんの痛みを理解して患者さんに寄り添い、支えることができる看護師になりたいと強く思いました。

6組 遠藤 耀 くん

「不自由と不幸は違う」という言葉を聞いて、今まで障害を負っている人は幸せになれなくてかわいそう など勝手に上から憐みの気持ちを抱いていた自分が恥ずかしくなりました。講師の方から目線の話をして聞いて、自分が普段信号を待つ際に点字ブロックの上に立っていなかったか、自転車で走行中に誰かを傷つける可能性のある危険な走行をしていなかったか、など自分の行為を考えさせられました。これからは、今回の講演で学んだことをしっかり自分の中にとどめ自分で注意し

ながら、家族にも話を伝えてよりたくさんの方に、この講演の内容を共有できるようにします。

7組 高橋 千夏 さん

私の将来の夢は、プロダクト・デザイナーになることです。目の不自由な方のために作られた時計などのグッズを見せていただいて、自分もそのような製品を考え、人々の役に立ちたいと強く思いました。自分の夢を叶えるために日々努力していきたいです。



(生徒の質問に答える斎藤先生と息子さんの洋之さん)